

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 准教授
氏名 Name	大和 祐子
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	(1) 留学生を対象とした日本語教育系科目編成のための基礎的研究 (2) 非漢字圏学習者の漢字語彙学習の成功に影響する要因の解明
<p>(1) 本年度は、日本語教師を目指さない留学生が、日本語教育系科目を履修する意義について記述式のアンケートの回答の内容分析を通して明らかにした。まず、学期開始前に行った調査では、授業を提供する側がねらいとしていることを、日本語教育学系科目に期待していることが分かった。一方、学期終了時に実施した調査では、他の国の学習者がどのような日本語教育を受けてきたのかを知り、自分の日本語学習経験を客観視できたこと、日本語教育というテーマを通して多様な教育文化を知ることができたこと、日本語を学ぶ立場だけでなく日本語を教える立場を理解できたこと、日本語で日本語教育学に関わる自国の事情や自分の考えを説明するために日本語のコミュニケーション能力が培われたことなどがメリットとして挙げられた。学習者の回答から、日本語教育学の授業が単に知識を得るだけでなく、自分自身を知り、他者を理解することで日本語教育を多角的にみる機会になっていることが明らかになった。研究成果は、インドネシアで行われた ICJLE で報告した。大和祐子・小森万里(2016)「日本語教育学系科目の可能性—日本語非母話者の考える日本語教育学系科目の意義とは—」『バリ ICJLE2016 年日本語教育国際研究大会発表予稿集』</p> <p>(2) 本年度は、主に非漢字圏日本語学習者に対する漢字習得の先行研究と具体的な実験デザインの構築、及び実験刺激の作成等を行った。まず、漢字実験を行うにあたり、被験者の選定に用いる語彙テストの開発を行った。試行テストをフィリピンで実施してその有用性を検討した。その結果、開発した語彙テストは概ね信頼性を保証できるものであること、また出題された品詞・語種により正答率に影響するものではないことが確認できた。開発した語彙テストとその信頼性の検証結果については、以下の論文で報告した。(この他に、非漢字圏日本語学習者に対する漢字処理の講演 1 件、論文執筆 1 本あり)</p> <p>大和祐子・玉岡賀津雄・茅本百合子 (2016)「フィリピン人日本語学習者のデータを基にした非漢字圏学習者向け語彙テストの開発と評価」『ことばの科学』30. 39-58.</p> <p>また、漢字実験の刺激作成も完了し、実験も実施済みである。</p> <p>以上の研究の他、科研の研究分担者として、2 件の課題に取り組んだ。①漢字語彙テスト開発の研究結果に関する口頭発表を 2 件行った。②韓国語の助詞連続構成の認識と許容について、韓国・ソウルで韓国語母語話者/日本語を母語とする上級韓国語学習者に対して実験を実施した他、これらの成果に関する口頭発表を 2 件行った。</p>	